

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.1号
4月13日

今年度より、「国語の授業づくりモデル」としてなかなか珍しい「国語専科」となりました、永井陽寛です。学校全体の国語の授業力向上に向け、授業のフォーマットづくりや教材研究、みなさんの国語の授業のアドバイス(手前みそで申し訳ないですが…)など、授業に関する方向性やお悩み相談などで、お力になればと思っています。

○授業づくりの目標

- ・子どもたちがわくわくするような授業をつくっていきましょう
- ・先生たちもわくわくするような授業をつくっていきましょう
- ・授業を通じて「自分の考え」を持ち、他者を大切にできるような子どもたちにしていきたいと思います

☆研修ありがとうございました！

先日の研修ありがとうございました。短い時間でざっと話してしまったので、わかりにくい所も多々あったことと思います。今日は、研修の際にでてきた国語の用語についていくつか詳しくお伝えします。

・説明文の型

説明文の構成は「始め－中－終わり」「序論－本論－結論」です。展開には大きく3つの型があり、「頭括型」「尾括型」「双括型」これに加え、「時系列型」があります。

- ・「頭括型」…「まとめ・主張」が文章の始めにある型。低学年の教材に多い。
- ・「尾括型」…「まとめ・主張」が文章の最後にある型。説明文の典型的な型。中学年に多い。
- ・「双括型」…「まとめ・主張」が文章の最初と最後にある型。4年生以降に多い。
- ・「時系列型」…時間や事柄の順序で説明が並んでいる型。2年生に多い。

頭括型	尾括型	双括型	時系列型
じどう者くらべ(1年) (馬のおもちゃの作り方 (2年))	こまを楽しむ(3年)	アップとルーズで伝える(4年) 固有種が教えてくれること(5年)	たんぼぼのちえ(2年) どうぶつ園のじゅうい(2年)

※今後、先生方のお力も借りてまとめていけたらと思います！

☆4月に徹底したいこと！

1年の始まりである4月。中堅・ベテランの先生方はこの時期の重要性をわかっておられると思います。特に授業規律として徹底したいこと、先生方それぞれでお持ちですね。国語の授業担当からは「聞くかまえ」というのをお願いしたいと思います！

経験上、小学校の学習効果において「話が聞き取れる」というのは非常に大きなウエイトを占めます。音声として言葉が頭の中を通過しないように、聞く意識を持ち、内容を理解して、学習に活かせるように、子どもたちを鍛えていかなければいけませんね。特に若手の先生方はクラスづくりの始めとして意識していきましょう。

○「聞くかまえ」の育て方

・「ながら」で話を聞かせない！

先生やクラスの児童が話すときに、作業をしながら、手遊びをしながら、隣の子と話しながら、の児童はいませんか？そんな時は、全員が顔を上げて聞く意識が向くまで話始めるのを待ちましょう。「手を止めて聞きなさい」「顔を上げて、体を向けて聞きなさい」など、話始める前に声掛けをしましょう。どうしても時間の関係で焦って話始めてしまいがちですが、「かまえができるまで待つ」を徹底します。そうするとだんだんと子どもたちは自然に聞く構えが身に付きます。先生自身の声が、言葉が、クラスの子に届いているか確認しながら話していきましょう。

・「なぜ話を聞くことが大切なのか」を子どもたちに語ってあげてください！

先生たちの中で「なぜ話を聞くことが大切なのか」の答えをそれぞれお持ちだと思います。それをしっかりと子どもたちに語ってあげてください。ちなみに私は「話を聞くことは相手を大切にすること。思いやりの行動である。」ということを一年間こんこんと話します！

いろいろと忙しい4月です。いいスタートがきれるように何でもお手伝いします！

1学期	物語	説明文
1年	はなのみち	くちばし
2年	ふきのとう	たんぼぼのちえ
3年	きつつきの商売	こまを楽しむ
4年	白いぼうし	思いやりのデザイン アップとルーズで伝える
5年	なまえつけてよ	見立てる 言葉の意味が分かること
6年	帰り道	笑うから楽しい 時計の時間と心の時間

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.8号
7月11日

1学期の研究授業、ありがとうございました。4学年が短い期間に行ったことで、先生方の授業理解と学校としての方向性が共有できてきたのではないかと感じています。今回は4学年の研究授業と正木先生の助言を大まかにまとめてみます。7月25日の研修に向けて、振り返る視点になれば幸いです。

言語活動

- Aタイプ 学習のまとめとして自分の考えを書く
Bタイプ 筆者の書きぶりから、自分で説明文を書く



☆3年生 「こまを楽しむ」
言語活動 Bタイプ 「〇〇を楽しむを書こう」
主な学習活動 「書き方のコツを考えよう」
授業の仕掛け 「エラーモデル」

☆5年生 「言葉の意味が分かること」
言語活動 Aタイプ 「批評文を書こう」
主な学習活動 「わからないところを探そう」
授業の仕掛け 「レーダーチャート」

☆4年生 「アップとルーズで伝える」
言語活動 Aタイプ 「作品の紹介文」
主な学習活動 「書きぶりの工夫を見つけよう」
授業の仕掛け 「重ね読み」

☆2年生 「どうぶつ園のじゅうい」
言語活動 Aタイプ 「筆者に手紙を書こう」
主な学習活動 「筆者の言動を想像しよう」
授業の仕掛け 「一番大変な仕事はどれだろう？」



R5 言語活動 学年別一覧表

	第1教材	第2教材	第3教材	第4教材	
1年	くちばし ☆「くちばしクイズ」を作ろう(A)	うみのかくれんぼ	じどう車くらべ	どうぶつえんの赤ちゃん	
2年	たんぼのちえ ☆「〇〇のちえ」を書く(B)	どうぶつ園のじゅうい ☆筆者への手紙を書こう(A)	馬のおもちゃの作り方	おにごっこ	
3年	こまを楽しむ ☆「〇〇を楽しむ」を書く(B)	(ポスターを読もう)	すがたをかえる大豆	ありの行列	
4年	アップとルーズで伝える ☆「作品を比べる」レポート(A)	(パンフレットを読もう)	世界にほこる和紙	ウナギのなぞを追って	
5年	言葉の意味が分かること ☆作品の批評文を書く(A)	(新聞を読もう)	固有種が教えてくれること	想像力のスイッチを入れよう	
6年	時計の時間と心の時間 ☆筆者に意見文を書く(A)	利用案内を読もう	「鳥獣戯画」を読む	メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために	今、あなたに考えてほしいこと

正木先生の助言集

- ・子どもの心に火をつける学習活動の設定
- ・学級全体で乗り越えようとする学習課題の設定
- ・教師≠レフリー(授業では「ジャッジ」ではなく「コントロール」「マネジメント」)
- ・「わからないベース」の授業、「読み手」と「書き手」の立場
- ・「指導言」について
- ・「なんのため」発問から、「見つける→探す→気づく」学習へ
- ・めあては「解決課題?」「学習目標?」
- ・教材の特性を考える
- ・ゆさぶり発問の三要素「限定」「比較」「否定」

※ご自身でも「研究授業のまとめ」や「正木先生のスライド資料」を見返して、一度ゆっくり振り返ってみてください。

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.3号
5月9日

GWはゆっくり休めたでしょうか。怒涛の4月お疲れ様でした。そろそろクラスの形もできてくる時期ですね。これからもしっかりじっくり、学習規律や学習にむかう構えを整えていってください。今回は4月にクラスを回っている中で、5年1組の物語文の実践を紹介します。昨年度に取り組んでいた単元デザインがよくわかる実践です。

○5年生「なまえつけてよ」

国語科 単元計画表

学年	時期	単元名	評価項目	全時数
5年	4月中旬 ～下旬	なまえつけてよ	C1イ(思・判・表) C1エ(思・判・表) 1オ(知・技)	

○単元の目標

- 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基にとらえることができる。
- 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

次	時	学習内容
第1次	2	○単元扉、題名から物語を想像し、判読を聞く。初発の感想を書く。(1) ○初発の感想を交流する。学習課題を設定する。(1)
第2次	2	○登場人物同士の関わりが変化したということは、それぞれ二人も変化した。どちらの方がより大きく変わったかを考え、交流する。(1) ○物語全体をとらえ、自分の考え(ハッピーエンドなのか、バッドエンドなのか)を書く。(1)
第3次	2	○登場人物どうしの関わりの変化をとらえ、二人のその後(四日目)について書く。(1) ○書いた物語を交流する。(1)
単元のゴール		☆「登場人物どうしの関わりをとらえる」 物語は三日間の話である。大きく変化した三日目の翌日、二人のようすを想像し書くことができる。

板書、子どものノートは先生用フォルダの「単元計画」にはいっていますので見てください！

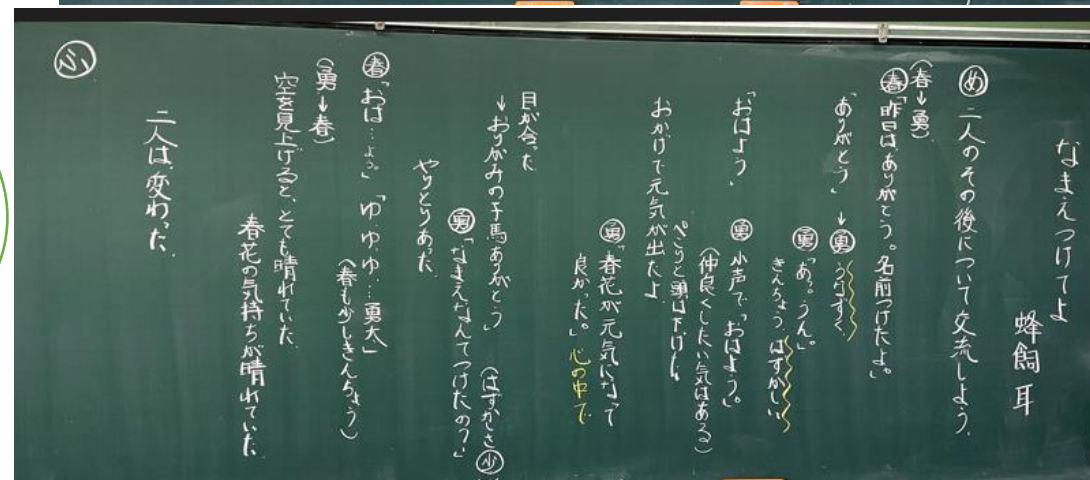
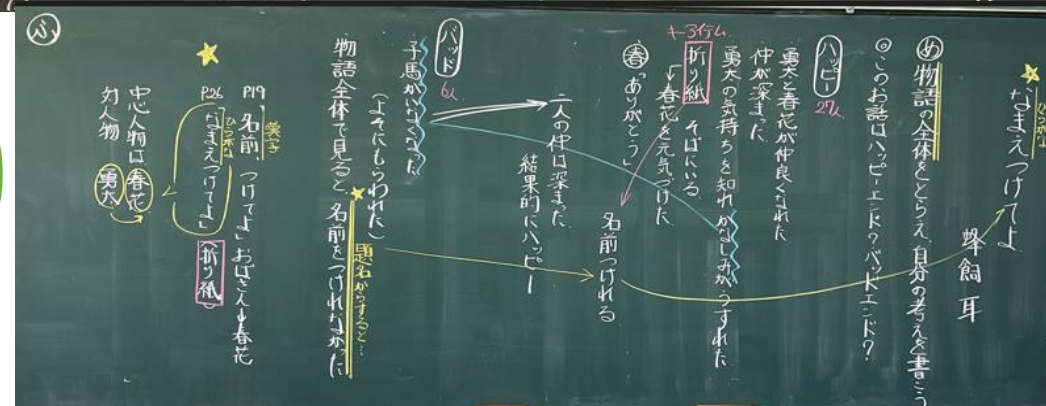
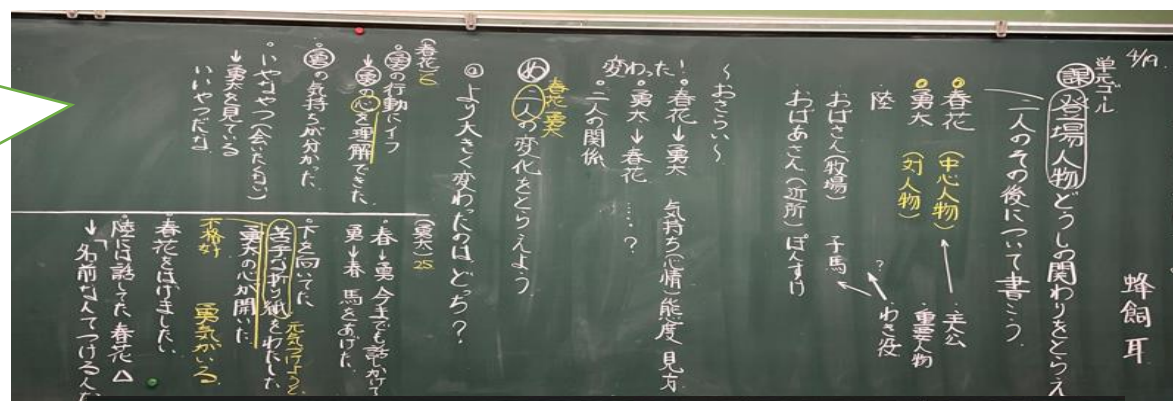
「どちらのほうがより大きく変わったか」
「ハッピーエンドかバッドエンドか」
判断で仕掛けることで子どもの思考を促していますね！

「翌日のようす」という物語の続きをこれまでの読みを繋げて、想像を広げながら書く活動です。良い言語活動ですね！

○言語活動の設定

「登場人物どうしの関わりの変化をとらえ、二人のその後について書く」という言語活動です。そのためには、登場人物である二人がどのように変化したのかを読み取る必要があります。

「どのように変化したのか」という変容を直接子どもたちに問うのではなく、「どちらのほうがより大きく変化したのか」と問うことで、子どもたちは自然とそれぞれの変容を読み取ったうえで、さらに、自らの考えで「どちらか」を選びます。思考が刺激されて考えの形成が促されます。次に「ハッピーエンドかバッドエンドか」を問うことで、物語の結末に対する自らの考えの形成を図っています。「なまえつけてよ」という物語の特性として、主人公の女の子が期待を裏切られたが、最終段落で対人物の男の子に救われるという話になっています。これをハッピーととらえるかバッドととらえるかによって、単元のゴールである「二人のその後」に違いが生まれてきます。このズレが非常にもしろい作文となっていくますね。単元を通してゴールに向かっていく授業でした！



「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.4号
5月22日

気温もどんどん上がってきて汗ばむ陽気になってきましたね。水泳学習が始まるまでのじっくり学習に取り組める期間です。子どもたちの学びの力を育んでいきましょう。

今回もクラスを回っている中で、共有しておいたほうがいいなと思う言葉や考え方を載せていきます。特に経験年数が浅い先生方にみられる傾向があったので良ければ読んでください。

○「考え」と「根拠」について

子どもたちが発言する際に含まれておいてほしいエッセンスとして、「考え(解釈)」と「根拠」があります。どちらか一方だけでは発言の質が低くなるので、こちらからの声掛けで意識させていきたいですね。

考え(解釈)・・・学習課題に対して自分はどのように考え・思っているか。

根拠・・・本文の記述や自らの生活経験などから実証できるもの。

というように分けていると

「**根拠**はわかったけどそこからどう思うの？」(根拠のみで自分の考えがない児童に対して)

「**考え**はわかったけど**根拠**はどこ(なに)かな？」(自分の考えのみで根拠がない児童に対して)

というように子どもに問いかける際に整理して返しやすくなります。

○「理解」と「納得」、「対話」と「会話」について

考えを交流するに際して、「理解」と「納得」は完全に分けて考えるように指導しないと、うまく話し合いにはなりません。子どもたちが「ちがう、ちがう！」というのはどの段階の「ちがう」なのかを判断していく必要があります。

まず、当たり前ですが必ず大切なのが「理解」することです。話し合いでは、「相手の話している内容がどういったことなのか」「なぜそのような考えになったのか」「根拠にしている事がらは何か」ということを理解し、受け止めなければいけません。そのために、国語科では、説明文で「筆者が言いたいことはどんなことで、その根拠にしていることがらは何かなことか」、物語文で「登場人物はなぜそのような行動をとったのか」「その時はどういった心情だったのか」を考えます。この「他者理解」の力が本当に大切ですね。その「理解」があったうえで、自分がそれに対してどのように考えたかが、

「納得」したかどうかになります。なので、子どもたちの状態としては4つのタイプになります。その子が今、どの状態で考えているかを把握すると声掛けしやすくなりますね。

・理解できていて、納得している ・理解できていて、納得していない

・理解できていなくて、自分の考えのみ ・理解できていなくて、自分の考えもない

子どもたちへの問いかけでよく「わかった？」と問うてしまいます。この「わかった」の中に「理解したか」と「納得したか」の両方が含まれている場合があります。ですので、子どもたちの中にも「わかる」＝「納得する」ことと捉えてしまっている子どもが多いです。ですが、これは非常に危険で、考えを形成していき話し合う上で困難になってしまいますので、できる限り、「理解はできてる？」「納得もしてる？」と問えるようになればいいと思います。「理解できるけど納得できない」という子どもの意見が話し合いを活発にしていきますので、ぜひそういう子どもの意見を低学年から育ていき、大切にしていきたいですね。

相手を理解することは相手を受け止めることと同じで思いやりです。考えの違いを認め合うことも思いやりです。納得しなくて話し合いをすることで建設的な意見が生まれていきます。ですので、言葉によって定義づけてあげることで、子どもたちの意見を整理してあげ、考え方の整理もしてあげてください。相手を大切にしながら、自分の考えもしっかりと言える子どもたちに育ていきたいですね。

たつきごまは、たたいて
回しつづけることを楽し
むこまです。このこまの
どうは、細長い形を使
います。手やひもを使
て回した後、どうの下
ぶぶんをむちでたた
す。かいてんをくわえ
す。止まらないように
上手にたたいて力をつ
えることで、長く回し
楽しめます。

たつきごまは、たたいて
回しつづけることを楽し
むこまです。このこまの
どうは、細長い形を使
います。手やひもを使
て回した後、どうの下
ぶぶんをむちでたた
す。かいてんをくわえ
す。止まらないように
上手にたたいて力をつ
えることで、長く回し
楽しめます。

上記は現在3年生で行っている「こまを楽しむ」の授業の一例です。単元の言語活動は「○○を楽しむの文章を書こう」でそのために、「3-2組の書き方のコツを作ろう」という展開で進めています。左は筆者の本文、右は教師が用意した文章、2つを比べることで「どちらが良い文章か」を話し合っていきます。

「筆者のほうがいい」派

- ・題名が「こまを楽しむ」なので楽しいことじゃないと読者がやりたいと思わないから
- ・子どもにはむずかしいかもしれませんと書いているとやる気がなくなる

「先生のほうがいい」派

- ・事実を正直に書いているのがいい
- ・むずかしいことも書いているほうがやる気がでる

子どもたちはそれぞれの文章の意図を想像し理解して、自分の納得した考えを作っていました。

「国語の授業を楽しく」

令和5年度
No.5号
6月1日

今年度1回目の研究授業が終わりました。3年生の先生方ありがとうございました。授業の中の仕掛けによって、心に火がつき、自分の考えを伝えようとする子どもたちの姿がとても素敵でした。国語の授業はどうしてもしんと静まり返ってしまいがちです(静かな時間もちろん必要です)。しかし、子どもたちの疑問やつぶやき、先生からの仕掛けや発問で、どんどん動いていく授業を目ざしていきたいですね。

今年度が始まって、職員室で授業の話がたくさん聞こえてくるようになりましたね。研究授業に向けて学年で単元計画を検討されていたり、日々の授業の様子を共有していたり。お忙しい中ですが、八尾小学校の子どもたちの国語力向上に向け、引き続きよろしく願います。何かあればご相談ください。

【正木先生の指導助言より】

○今回は時間の関係上、昨年度から助言いただいている項目に関しては割愛されていましたので、ここで改めて紹介します。(R4 研究授業のファイルにあります)

実践を通して、何を見て、どのような気づきを得たいのか？	実践を通して、学習集団（聴き合う関係）について考える
A) 授業づくり 「子どもたち＋教師」の文脈 × 教材の特性 × 夢中になる学習活動 Ⅰ) 「教材の特性」を学習活動に生かすことができているか？ → その教材がもつ個性 (今回は「海の龜」と「海のいぬち」) Ⅱ) 子どもたちが夢中で取り組む (やりたいと思う) 学習活動は設定されているか？	教室のなかの「きく」＝対話的關係をめざして 1) 子どもたちのきく姿勢 「聞く」→「聴く」→「聴き合う」⇔「訊く」(効く) 2) 先生からの「指示」「説明」「語り」の言葉をきくこと 子ども同士の言葉を、子ども同士がいかにききあうか？ → 聴き手の構えづくり：注目する指導言 T「○○さんは、～やってんな」という受け止め 3) 教師からの「発問」「うながし」に対して 子どもたちが「反応」できているか？ → 反応：うなずき・あいずち・まなざし ：つぶやき・おたずね など 4) 子どもたちの反応や発言に対して 教師がきくことや「反応」ができているか？
B) 授業での姿 「子どもたちの姿 × 授業者のねがい・ねらい × 研究テーマ」 Ⅰ) 子どもたちにとって、取り組む学習活動は自然であったか？ Ⅱ) 「子どもたち同士×教師」に「聴き合う」関係が見られるか？ Ⅲ) 教師が、引き上げることのできるチャンスはどこにあったか？ Ⅳ) 子どもたちの発言から何が得られるか？	学習集団（聴き合う関係）づくりと「発問」 学習過程（45分）を例に 個の考え①→（ペア・小集団）→場の交流→個の考え② 1) ねらいに応じた2つの発問 確認する発問 = 一問一答（おさえておきたいこと） 考えさせたい発問 = 「一問多答」形式が多いが 「一問一答」形式の場合もある 子どもたちにうながしたい思考・協議 → 発言の内容（成分）にどのようなことが入ってほしいか？ ① 自分の「考え」 ② 「考え」をささえる理由 A) どこからそう思ったか？ (根拠：作品のことば) B) 自分だったら／相手だったら／○○と結びつけて (関連づけ：既有知識・生活経験：自分のことば)
学習過程（45分） 1) 子どもたちの活動の流れ △ 「先生が」子どもたちを動かすのみ ○ 「先生と子ども」とのやりとり ◎ 「先生と子どもたち」との交流をデザイン 個の考え①→（ペア・小集団）→場の交流→個の考え② → 「聴き合う」ために、何をデザインするか？ ・たがやす：前回の授業・単元と今回までのつながり ・しかける：(例) 判断をうながすしかけ(発問・学習活動など) ・ひろげる：「個の考え①」の広がり（Aさん・Bさん・Cさん…） ・ふかぼる：「場の交流」の深まり（T：「だったら…、じゃあ…」） × ・うながす：（T：「どういうこと？」「もうすこし教えて」）	

※正木先生の指導助言を含めた、今回の「研究授業のまとめ」に関しては、学力向上部より近日中に配布されますのでそちらをご覧ください。

・授業づくり

「子どもたち＋教師」の文脈×教材の特性×夢中になる学習活動

昨日も「教材の特性」についてお話いただきました。「説明文の型」に関しては決まった型があるので、それを学ぶだけでは子どもたちはつまらないと感じます。教材の特性を活かして、**夢中になる学習活動**を設定していきましょう！

・聴き合う学習集団

前回の通信でもお伝えした「対話」と「会話」の違いについて。授業の中では「対話的關係」が大切です。そのために、「**聴き合う＝訊く**」關係を目ざしていきましょう。「聴き手の構えづくり」意識されていますか？**子どもたちが安心して聴き合える学習集団**の中で、学力は伸びていくようです。

・学習過程

「聴き合う」ためには場の設定も大切です。1時間をデザインして、何を考え、どこで考え、だれと考えるのか、どのように伝え合うのか、という授業形態や授業規律に関してもいろいろとチャレンジしていても良いかもしれません。

・教師の出る場面

1時間の授業の中では「たがやす」「しかける」「ひろげる」「ふかぼる」そして「うながす」など、教師がでる場面があります。そのときに活動や発問で子どもたちを揺さぶったり、つなげていったりします。ですが一方で、**教師が出過ぎたりしゃべりすぎたりすると子どもたちの熱は下がってしまいます**。子どもたちが夢中になって活動しているときは、自分の考えを伝えたい、聞いてほしいという時ですので、教師が話す番をとってしまうのはよくありませんね。「ひろげる」「ふかぼる」「うながす」ポイントを見極めていきましょう！何人かに発言を促していくとそのうちなんとかなるものです！

・ねらいに応じた2つの発問

かといって、なんでも子どもたちの発言から進めていくのではなく、「確認する発問」と「考えさせたい発問」を使い分けていきましょう。前時のふりかえりに時間がかかりすぎて、その時間の主発問に時間が取れない…という研究授業もたびたびあります。前菜でお腹いっぱいになってメインディッシュに興味なくなるともったいないので、授業のテンポも大切です。

正木先生のお話は、2年目ということで昨年より一段深い内容になっていました。昨日の配布資料の中に説明文の授業の作り方のノウハウが書かれていますので一度しっかり読んでみてください。